

# 海岸情報の収集・共有化に関する調査研究

## Study on collection and sharing of coastal information

水循環・まちづくりグループ 研究員 後藤 勝洋  
研究 部 門 主席研究員 渡邊 茂

### 1. はじめに

わが国は世界で6番目に長い約35,000kmの海岸線を有しており、海岸域は国土保全上からも、陸上の社会活動の結果が色濃く現れる区域であり、余暇利用や産業、多様な生き物のすみかとしても重要な場所となっている。この長大な区域を海岸管理者が把握するには、現状では、人員や体制、予算等が十分ではなく、管理に資するための情報も極めて少ない。

この状況の改善方策を検討するため、「海岸環境調査研究会」の活動の一環として、当研究所が運営事務局を担当し、ウェブサイト「海岸情報ステーション」(<http://www.kaigan-info.jp/>)を設置した(図-1: トップページ)。本サイトは、多様な海岸の情報を主に一般市民から提供していただくことに着目し、提供された情報が共有化され、社会に利用されることを想定して平成19年6月に開設し、運営を続けている。

本稿は、サイト開設から6年を経た「海岸情報ステーション」の運営状況について報告するものである。



図-1 海岸情報ステーションのトップページ

## 2. 海岸情報ステーションの運営状況

### 2-1 海岸情報ステーションの運営状況

海岸情報ステーション(詳細は、「海岸情報の収集・共有化に関する調査研究、リバーフロント研究所報告第19号、平成20年9月」を参照)は、利用者からの投稿を情報源として、主に海岸に関わるイベント情報を発信する「海岸ニュース」、海岸に関わる様々な話題に対して情報交換を行う「投稿情報コーナー」を中心

に、トップページの見易さも考慮しながら更新を行っている。サイト開設以降、大きなトラブルもなく順調に運営していたが、平成23年にシステム不具合が起きたため、一時的に運営を休止し、平成24年3月に再開した。

現状の海岸情報ステーションのアクセス状況として、サイト全体(下記の新潟海岸情報ステーションを含む)の総アクセス数では800/日程度であり、更新頻度の高い「海岸ニュース」、「投稿情報コーナー」へのアクセスが多い。

「投稿情報コーナー」への投稿状況として、サイト開設以降、利用者からの投稿数は徐々に増加し、平成22年度で20件/年の投稿があったが、平成23年の運営休止・再開後の平成24年度では3件/年と、休止中の利用者離れの影響が見られた。これまでの投稿内容のカテゴリーは、侵食問題等の地形変化関係が4割以上、次いで生物関係が2割程度を占めており、専門性の高い投稿、意見交換がなされている。

### 2-2 新潟海岸情報ステーションの運営状況

「新潟海岸情報ステーション」(<http://www.kaigan-info.jp/n/>)は、海岸情報ステーションの地方版として、平成19年5月に開設された。

新潟海岸情報ステーションは、海岸とその周辺で気付いたことや工事現場の経過報告、凧を使った航空写真などの地元利用者ならではの発信情報に基づく「投稿情報コーナー」を中心に更新を行っている。平成22年度の投稿数が19件/月であったが、運営休止・再開後の平成24年度で5件/月と減少している。

## 3. おわりに

海岸情報ステーションの開設以降、安定した運営状況、利用形態を得ていたが、システム不具合による運営休止・再開後、利用者からの情報投稿の活性化が課題となっている。そのためには、地元海岸関係者との連携は不可欠であり、イベント等の参加時における広報を通じて当サイトを知ってもらい、お互いの顔が見えるネットワークづくりを推進していくことが求められる。